第30期第５回仙台市図書館協議会会議録

◎　会議の日時・場所　　令和４年１月31日（月）10時00分～11時00分
　　仙台市役所本庁舎２階　第３委員会室

◎　出席委員の氏名　　遠藤仁委員、跡部裕史委員、小野寺利裕委員、
　　小林直之委員、杉山秀子委員、高橋由臣委員、
　　滝川真智子委員、根岸一成委員、堀多佳子委員、
　　真壁直人委員、渡辺祥子委員

◎　事務局職員氏名　　市民図書館長　樋口千恵、市民図書館副館長　柴田聡史、
　　広瀬図書館長　菊池雅人、宮城野図書館長　岡本幸代、
　　榴岡図書館長　柴田雅子、若林図書館長　山口宏、
　　太白図書館長　（兼）柴田聡史、泉図書館長　松島桂一、
　　市民図書館主幹兼奉仕整理係長　山田千恵美、
　　市民図書館企画運営係長　早坂江美子

◎　会議の概要

１　開　　会

２　挨　　拶

市民図書館長挨拶
会長挨拶

３　会議録署名委員指名

会長より真壁直人委員を指名。

４　協議事項

（１）「仙台市図書館振興計画2022」中間案に関するパブリックコメント実施結果及び最終案について
（市民図書館副館長　説明）

資料１－１～１－３にもとづき説明

議　　長　　数値目標を設定しているが、その設定の仕方が難しく、100万人の人口がいるから100万人が図書館に興味関心を持って使うかというと、必ず使えない人や無関心な層というのがあり、伸びていっても必ず伸びは鈍化するはずである。数値を具体的に出してしまうと、達成できなかったときにネガティブな受け止め方をされて、場合によっては予算を削られるなど弊害が生じることを恐れる。

　どんな目標の設定をしていって、市民に成果を見せていけばよいのか、皆さんの知恵を拝借しながら、時間をかけて検討させていただければと思う。全体を通してご意

見、ご感想、ご質問等あればお出しいただきたい。

全国的に見ても、図書館として数字を具体的に出すというのは、いかがか。

事　務　局　他都市の様々な図書館計画を見ても、目標について具体的な数字を挙げているところは比較的少ない。28 ページで管理指標として挙げているような項目ごとの数値目標や、前年度よりも増加させるといった目標が見られるところである。

この計画において数値目標をあえて出すことに関しては、ただ今お話のあったようなリスクもある一方で、かなりチャレンジングな数字ではあるが、数値目標を掲げることによって、職員が一丸となって頑張っていきたいという動機づけにもなる。また、図書館の姿勢として、目標を掲げることも必要かと思い、目標とする数字を算出した。

ただ、過去最大の実績と伸び率を勘案した数字であるため、コロナ感染状況等不測の事態によっては難しくなるというような不確定要素ももちろんある。

議　　長　各館の配置人員や通常行わなければいけない業務といったことを勘案すると、アウトリーチ事業にしてもおのずと限度があるので、どのくらいが適正なのか、あるいは頑張っていると見ていただけるのかというあたりを、どのように示していくかである。

真壁直人委員　学校も、標準学力検査などが行われるようになってから、もちろんいい部分もあるものの、そこまで達しないと駄目だという足かせのようなものにもなっている。

図書館でも、各館の数値を個別にも出すと思うが、例えば、数値が低かったところは努力が足りないみたいに取られないようにはしないといけない。

それから、令和７年度に利用者満足度が 90%にならなかった場合の分析とか、そういった作業がどんどん細かくなっていくことも気になる。数値目標そのものは否定しないが、細かくなっていくと、事務量がものすごく取られる。本末転倒にならないかという危惧はあるので、その辺をうまくできればいい。

もちろん、図書館の職員がいろいろな工夫をして、それが数値として出てくればいいが、逆の場合、モチベーションが下がって単に疲労感が積み重なっていく、職員の業務が増えていくのが心配に思う。

小林直之委員　私も数値というのは非常に難しいのではないかという印象を持っている。連携している「仙台市子ども読書活動推進計画」の、子どもたちの伸びがないというところにも関わってくるし、人口自然減などいろいろな状況で、この数値の達成が苦しくなってくることが足を引っ張らないかという不安もある。言ってみれば、図書館での様々な取組とは全く別問題で数値が達成できないことも十分あり得るのではないか。評価されるときは数値が達成されていないということだけになってしまうので、非常にネガティブな結論になりかねない。そうすると、事務作業というのは細かくなればなるほど時間がかかるので本末転倒になるという、本当に先生方のご意見どおりのような気がする。

なので、大きな打開案、電子図書館の導入というのはその一つかもしれないが、そういったものがない限り、例えば令和７年度の見直しのところまでを区切りにして、そういう評価が正しいのかどうか、この数値目標は確実に令和７年度で一回見直さな

くてはいけないものだと想定してもいいと思う。無理であれば無理ということでも、構わないような気がする。やはり数値でははかりにくい。

議　　長　区切りのところで見直すというのは、大変いいご提案だと思う。やはりサービスであるから、数だけではなく質的なものを重視していく必要があるので、大変貴重なご意見である。

渡辺祥子委員　質的な部分というのも、私は数値を見てずっと危惧していて、数値目標が達成できる、達成できないという問題もあるが、本来、教育とか福祉とか医療に数値というのはどうなのだろうと常々思っている。数値目標を出すことは、この時代どうしても必要になってくるし求められるところではあるが、例えばその下のところに、本を提供する図書館として持っている意味や意義を考えたときに、時代の変化や質的な問題によって数値だけではない要素にも力を入れていきたいというような思いも載せられたらいい。数値化ばかりされていく現象に危惧を感じている一人として思ったところである。

杉山秀子委員　例えば基準値よりも下がったとしても、その下がったところに、これからの課題とかいろいろなものが見えてくるので、それを改善したり、考えたりすることに意味がある。目標値を持つことは仕方がないが、下がったことがイコールマイナスではなく、それを皆さんがどう評価してくださるかということだと思う。そういう意味では、やはり質を求める中で、数ではないのかなということは常々考えている。私たちの仕事でも、アンケートをとると、次に反映するものは何かと一生懸命考えていかなくてはいけないのだが、数を追うものではないという気はする。

滝川真智子委員　今回、この数値目標が新しく書かれた 28 ページからは、意見（パブリックコメント）の 18 番を受けてということか。

事　務　局　次期の計画を策定する上で数値目標を設けていくことは、昨年の議論の最初の段階からお話をさせていただいたところである。

滝川真智子委員　私も皆さんのご意見のとおり、数だけでは表わせない、本来の読書の意味というのもあるような気がしている。

跡部裕史委員　私も、数字だけではなく、やはり質のほうを大切にしてほしいということが一番で、あえて目標を挙げるとしたら、強いて言えば利用者満足度、これが高ければいいという見方が一つ考えられる。あとは、何とか数だけ上げようという感じで、そちらのほうに努力が行ってしまうことに疑問がある。

堀多佳子委員　このように数値目標を掲げたということは、令和７年度までにこの目標に達するために、いろいろな施策を考えてつくってきたわけである。ただ目標を立てただけではなくて、そのために努力をするのだというのがしっかり書かれている。その努力をするための目標にも、その先に見えるものにもなっていると思うので、結果的にその目標値に達しなかったからといってそこで評価するのではなくて、ここに達するために自分たちはどれだけのことをしたかということを積み重ねて、話し合い、記録して共有していけば、モチベーションを上げるためにもいいことだと思う。その過程を大事にするために捉えていけばいいのではないか。

根岸一成委員　私どもの振興計画でも、やはり数値的な部分も必要だというご意見もあり数値目標を設定している中で、それも一つの指標としてどうだったかという検証をしている。ただ、やはり事業ごとに、回数や参加人数などなかなか達成し切れない部分もあり、そうすると原因がどうだったかと、いろんな部分で職員として振り返る一つのきっかけになることはある。

ただ、当館の場合だと、今の場所に移転した平成 10 年３月当時は年間で大体 100 万人の入館者数があり、相当なにぎわいがあったという記録が残っているが、近年の推移を見るとコロナの影響もあり、年間で大体 35～36 万人位と落ち込んでいる。

一方で、ネット環境や生活の変化、交通の利便性の変化など、様々な要因でそれぞれの学びの形が多様化していったと言えなくもないので、もう一回 100 万人に戻すというのはほとんど不可能な状況ではあるのだが、そういったところで今後必要なサービスというのはどういうものかという質的な部分を含めて考えていく必要はあると思っている。

議　　長　ＰＤＣＡサイクルみたいな形で、振り返りなども含めて次にどう生かしていくかということで考えていかざるを得ないと思う。この問題は、今後事務局から報告いただく折などにも、例えば説明の仕方や示し方など、皆さんからご意見を頂戴して、今日は性急にまとめてしまうのではなく、長い目でどんな在り方が望ましいのかということを、今後とも議論し、検討させていただければと思う。

ほかに何かあればどうぞ。

各　委　員　特になし。

議　　長　ⅢとⅣは、付け加えることについてどこからか要望があったのか。

事　務　局　記載内容は多少変わっているが、これまでの計画にも掲載しており、最終案で付け加える予定としていたものである。「Ⅳ資料編」用語解説は、今までは脚注にしていたというような違いがある。「Ⅲ計画の推進に向けて」のうち、目標の設定については初めて入れたものである。

議　　長　全体として非常に分かりやすい資料になっていると思う。

それでは、次期振興計画の最終案については、この内容で承認いただいたということでよろしいか。

各　委　員　了承。

議　　長　目標の設定の仕方や年度ごとの評価の仕方などについては、継続して今後とも皆さんの知恵を拝借して考えさせていただければと思う。

（２）令和４年度仙台市図書館運営方針・事業計画策定に向けた「重点事業」案について

（市民図書館副館長　説明）

資料２－１～２－２にもとづき説明

議　　長　ただいまの説明について、委員の皆様からご質問なりご意見はあるか。

堀多佳子委員　「（３）の誰もが利用しやすい図書館サービスの方向性」であるが、例えば子ども

がいじめに関する本を探してみたいと思ったときに、グーグルなどで『いじめの本』などと検索して、図書館で借りられるかなと思って来ることも考えられる。図書館のホームページでは、「こどものページ」の「本などをさがす」でキーワードを『いじめ』と入れると、大人向けの本しか載ってこず、子どもが求めているような本は上がってこない。テーマで検索できるような工夫は可能なのか。本の題名には『いじめ』とは入っていないけれども、それに関するような本がリストアップされたら、より子どもや人が求めるようなものにつながっていくのではないか。

事　務　局　検索機能として、「児童書」というチェックボックスがあり、児童書に絞った検索も可能である。また、いじめに関する本のリストなど、テーマごとにリストを作っている。

堀多佳子委員　子どもも簡単にそこに行き着けるようなシステムがあれば。

事　務　局　テーマごとのリストを活用できるように検討したい。

堀多佳子委員　録音図書は「目の不自由な方のみ」と書いてあり、目の不自由な方しか扱えない。

事　務　局　利用登録をされた方が対象となる。障害者手帳の有無にかかわらず、さまざまな事情で活字の印刷物を読むことが困難だということをお申し出いただき、登録をすれば貸出しができる。

堀多佳子委員　そうであれば、「目の不自由な方のみです」という一言は要らないかもしれない。目は見えるけれども字が読めないディスレクシアの方もいらっしゃる。

事　務　局　文言をもう少し追加できないかという方向で検討する。

本日の協議を踏まえて、次回の協議会では、仙台市図書館運営方針事業計画として詳しいものをお示しする予定である。

議　　長　特にご質問、ご意見がなければ、次回具体的なことを提示するということなので、そのときにまたご意見を頂戴したいと思う。この案件に関しては以上で終了する。

５　報告事項

（１）仙台市榴岡図書館指定管理者の決定について

（市民図書館副館長　報告）

資料３にもとづき報告

議　　長　ただいまの報告に関して、皆様からご質問はあるか。

各　委　員　特になし。

６　そ の 他

配付チラシの説明

次回協議会の案内

７　閉　　会